

三ツ下谷遡行

日 時：2008年6月24日（火）

天 候：曇り

参加者：本庄（記録）

コース：谷上駅～三ツ下谷遡行開始地点～遡行終了地点（炭ヶ谷道合流点）～谷上駅

8:30 9:15 9:30 10:50 11:05 11:50

前回、雨のため中止となった例会のコース、三ツ下谷を偵察を兼ねて遡ってみた。

三ツ下谷は丸山谷の支流で、六甲では珍しく堰堤のないスッキリとした沢として知られている。しかし、谷の出合いまでのアプローチが分かり難いようなので、今回は三ツ下谷の状況に加え、アプローチの状況についても報告する。

<アプローチ>

神戸電鉄谷上駅を出て、西へ線路沿いに150mほど行くと三ツ下谷の本川、丸山谷に突き当たる。ここに「山田道」の道標があり、道標にしたがって、丸山谷右岸沿いの小道に降りる。「北神戸線」の高架を潜り、小道を100mほど行くと丸山谷を左岸に渡る橋があり（道標あり）、これを渡って右へ行くと「山田道」は山腹沿いの山道となる。

「山田道」を道なりに4～500m進むと古い標石と新しい道標が現れる（写真1）。道標には「右行止り」とあるが、右は丸山谷から上谷上に通ずる旧道で、一部ササに覆われた区間はあるものの通行可能、この旧道を途中まで進む。

「山田道」から分かれ旧道に入り、丸山谷左支流と本川を渡って丸山谷の右岸沿いにササを掻き分け、300mほど行くと谷の屈曲部に突き当たる。

上谷上に通ずる旧道はここで左の尾根へと向かうが、右には丸山谷沿いの道がなおも続く。これを200mほど進む（途中で立派な橋がある）と、左前方に2段の堰堤を擁する三ツ下谷が開けてくる。

このあたり、丸山谷沿いの道から三ツ下谷出合（写真2）へと下りる小道があるが、分り難い。わずかな距離なので斜面を適当に降りてもよい。



写真1 山田道・旧道分岐点



写真2 三ツ下谷出合

<三ツ下谷>

入り口の2段の堰堤は右側に巻き道がある。一部藪となっているが、忠実にたどれば、堰堤の上流側に降りることができる。ここで、地下足袋、ワラジを履いて遡行開始。

遡行開始地点（写真3）から2~300mほど遡ると2m程度の滝が現れ、さらに4m, 5m, 7m（写真4）の滝が次々と現れる（いずれも直踏可）。



写真3 遡行開始地点（堰堤上流）



写真4 7mの滝

7mの滝をシャワークライムで越えると、次に20mの斜瀑（写真5）が現れるが、ここも滝芯右を快適に直踏。この上部に10mの滝（写真6）。直踏は難しく、右の山腹斜面を高巻く。



写真5 20mの斜瀑



写真6 10mの滝

10mの滝を越えると直ぐに右股・左股分岐となり、ここは左股に入る。左股に入っても3m, 5m, 2m, 2mと小滝が連続するが、ゴルジュ（写真7）を過ぎた辺りから水量は少なく



写真7 左股のゴルジュ



写真8 遡行終了地点（炭ヶ谷道合流点）

なり、沢水が伏流するようになると左斜面上部（右岸）に「炭ヶ谷道」の道標が現れ、遡行終了である。斜面を登って炭ヶ谷道に出る。今回はこの道を花山駅方面へと下り、谷上駅に戻った。

三ツ下谷は全長 1km 程度の短い谷であるが、小滝や滑、ゴルジュなどが連続する変化に富んだ谷である。また、水も比較的きれいで、滝ではシャワークライムも楽しめる。

4m の滝は下部に小さなハングがあり、取り付き難いが、滝芯右に残置スリングがぶら下がっており、これに掴れば、容易に乗り越えられる。

20m の斜瀑は最上部が滑状で滑り易いが、適当な箇所にはボルトが打たれており、これを利用すれば安全に通過できる。

また、10m の滝については、今回単独行でもあり、また、水量も多かったため高巻きしたが、今後の課題である。

なお、三ツ下谷には巻き道がなく、終始沢中を歩くことになるため、快適に遡行するためにはワラジないし沢靴は必携である。



三ツ下谷とアプローチの概要